

伊藤 壽一：監修，
高木 明，平海 晴一：編

耳科手術のための 中耳・側頭骨 3D 解剖マニュアル [DVD-ROM 付]

評 者

加我 君孝（東京大学名誉教授/東京医療センター臨床研究センター名誉センター長/国際医療福祉大学教授・言語聴覚センター長）

●ビギナーには最初から、ベテランには後ろから読み進めてほしい書

現代の耳科学手術は人工内耳埋込術と頭蓋底外科というモダンな先端的手術と、60年の歴史のある鼓室形成術からなる。前者は耳科学のエキスパート、後者は耳科学を目指す新世代が最初に目標とする手術である。京都大学の伊藤壽一教授が他大学の参加者を募って、1年に2回、側頭骨の解剖を中心とする修練のためのコースを長い間開催してきた。国立大学の教室として、このような全国の耳科医に対してコースを開催し続けたのは京都大学のみである。最近では世界中の各地の大学で同様のコースが企画されているが、私も駆け出しの頃、ロサンゼルス House Ear Institute の側頭骨解剖コースに2回参加した。このコースから学んだことはたくさんあった。しかし、昨年突然閉鎖されたため、この伝統あるコースもなくなった。私だけでなく世界各国からの参加者はその教育への熱意、臨床のシステム、研究、そして米国の耳科学の伝統に強い印象を受けたことと思う。日本で同様のことができるだろうか。

伊藤壽一教授と私は、UCLA に同時

期に研究のために留学していたことがあり、それ以来親しい関係にある。ロサンゼルス留学で生まれた夢をわが国で実現したのが京都大学の側頭骨解剖コースと思われる。本書はその成果をA4判の大きなサイズの本に、鮮明な写真と3Dのstill写真と3D DVDが付録として付いている意欲作である。

本書はビギナーは最初から読み進め、エキスパートは逆に後ろから読むと刺激されるに違いない。鼓室形成術に必要な局所解剖がかゆいところに手が届くように記述されている。手技上注意の必要な点について警告しているところがいい。エキスパートの手がける人工内耳埋込術、頭蓋底外科の部分は私も大いに参考になった。側頭骨には狭いところに重要な器官が密集している。両眼で観察して手術するのであるが、現在の手術用顕微鏡ではメインの術者しか立体視ができない。すなわち、奥行きがわからないのが大きな弱点である。そのため本書は3D化に力を入れている。すなわち立体的に頭の中に組織解剖を叩き込んで、初めてより安全な手技が可能となる。最近では乾燥側頭骨の価格も高くなり、まして cadaver になるとわが国では手に入

れることはより困難になっている。このような時代、パーソナルに自分の脳を立体写真と動画で刺激できる本書は有用である。ただし、本書に記述している手術手技がどのような歴史的経緯で、誰によって提唱されて発展してきたか、コラムとして解説があればビギナーにとってより興味をもって本書を読み進めることができるのではないかと思う。

側頭骨の解剖のテキストは立体写真を付録とするものがこれまでも存在するが、本書は耳科学のエキスパートや初心者にとっても優れている。この本の編者の高木明先生の読者にわからせようとする執念と工夫、そして膨大な写真データも準備整理して取り組んだ平海晴一先生の努力の結晶である。

手術の前には、ベテランの域に入っても解剖書を開き予習するように、口を酸っぱくして言われたのは切替一郎東京大学教授であった。本書はその期待に応えることのできるテキストとして、耳科学の術者の座右の書として利用することを薦めたい。

A4 頁176 2014年 医学書院刊
定価：本体14,000円＋税
[ISBN978-4-260-02036-7]

